

7月のアンケートでは、大変お世話になりました。アンケートの結果は、おおむねよい評価をいただいておりますが、目標に達しなかった項目については、全職員で問題を共有し、原因を分析するとともに改善策を立案しました。その他の項目については、現在の取組を継続し、効果を検証します。今後も、職員一同努力していきます。

羅 針 盤			方 策	総合 評価	改 善 策
評価対象	評価項目	具体的数値項目			
Ⅰ 確かな 学力 (自ら学び考 える子)	①	学校は児童が「わかった、できた」という授業を行っている。	「授業は楽しく分かりやすい」と答えている児童が80%以上である。	A	・①～③すべてにおいて、目標を達成することができました。さらに向上できるように校内研修において次のような手立てを実践していきます。 教師が「～させる」授業から、児童が「～する」授業へ向けて、めあての設定から振り返りまでの「学び方」を身に付けさせるため、校内研修等で話し合い、実践していきます。 児童の学習のゴールの姿を共有し、その達成に向けて、教師が伴走者として支援していきます。 ICT活用において、活用することだけを目的とせず、各授業のめあて達成のための有効な手段として活用していきます。 漢字、音読、計算などの課題を計画的に出し、家庭学習の習慣を身に付けさせ、基本的な課題を出すことで、児童にできたという達成感をもたせていきます。また、中学年以上の児童には、ミライシードを継続的に取り組みさせ、基礎基本の定着を図ります。
	②	学校は、児童に家庭学習の習慣が身に付くよう適切に指導している。	「家庭学習(読書を含む)を学年×10分以上している」と答えている児童が80%以上である。		
	③	学校は、ICTを効果的に活用した学習をしている。	ICT(タブレット、映像、プロジェクター等)を使用することによって、学習がわかりやすくなったと答える児童が80%以上である。		
Ⅱ 豊かな心 (思いやりの ある子)	④	学校は児童があいさつができるように適切に指導している。	子どもが「自分からあいさつができる」と答えている児童・教師・保護者が80%以上である。	A	・④～⑥について 目標を達成することができました。さらに向上できるように次のような手立てを実施していきます。 朝のあいさつ運動や授業の始め終わりのあいさつなど、しっかりとできる児童が多くみられます。引き続き学校生活を送る中で児童の自己指導能力を伸ばす場や機会を積極的につくり、高めていきたいです。 臨機応変にその場、その時に応じたあいさつや、ボランティアの方たちへのあいさつが消極的になっている場面があるので、あいさつは人と人とのつながりに欠かせない大切な行動であることを児童に理解させ、気持ちのよい生活が送れるように指導、実践していきます。 ・⑦⑧について 学校のいじめ防止基本方針をもとに早期発見、早期対応を心がけます。そのために、全職員で全校児童をよく見て、児童の様子の変化をみつけたり、感じたりしたら、報告、連絡、相談をこまめに行い、対応します。また、児童、保護者に寄り添う支援をしています 高学年においては、QUの結果を用いて、個人と集団の両面から結果を分析し、児童への手立てや指導方法などを話し合います。 「SOSの出し方」に関する指導を定期的に行い、SOSを出せる児童を育成します。
	⑤	児童の自己指導能力を育成している。	「自分の行動は、自分の頭で考えて自分で決めて動くことができる。」と答える児童が80%以上である。		
	⑥	学校はいじめのない学校づくりを推進している。	学校生活が楽しいと感じている児童が90%以上である。	A	
			学校はいじめへの対応や対策ができていると答える児童・保護者が100%である。		
	⑦	児童は学校に困ったことや悩みなどを相談できる。	「学校に相談がしやすい」と答える児童が90%以上である。	B	

Ⅲ 健康・体力 (心も体もたくましい子)	⑨	学校は、児童が基本的な生活習慣が定着するような働きかけを行っている。	毎日朝食をとっている児童が90%以上である。	・食事と体の成長を関連づけた授業を充実させる。 ・栄養士による朝食の大切さを扱った授業を実施する。 ・陸上、持久走、なわとびの練習時間を、年間を通して計画的に設定する。 ・朝行事に体育集会を取り入れ、学校全体で取り組む。 ・体育の授業で、鉄棒カード、なわとびカードを準備し、自主的に練習ができるようにする。	A	・⑨～⑪すべてにおいて、目標を達成することができました。さらに向上できるように次のような手立てを実施していきます。 ・⑨について 食事とからだの発達の関係を学級で指導し、児童に朝食の大切さを知ってもらいます。 ・⑩について 生活習慣の見直しや睡眠の大切さについて、日頃から啓発していくとともに、保護者と連携を図りながら生活習慣の改善を図ります。 ・⑪について 持久走やなわとびの学習の期間には、家庭でできる練習を提示したり、ワークシートを持ち帰らせ、体力向上の機会を設定したりしていきます。 - 休み時間は全校児童で外遊びをするように声かけ、体を動かすことの楽しさが分かるような支援を行っていきます。
	⑩		毎日1日8時間以上の睡眠をとっている児童が90%以上である。		A	
	⑪	学校は、進んで体力の向上を図ろうとする児童の育成に努めている。	進んで体力の向上を図ろうとする児童が80%以上である。		A	
Ⅳ 家庭や地域との連携	⑫	学校は、学校の考えや児童の様子を保護者にわかりやすく伝え、理解を得ている。	「学校の考えや子どもの様子が分かる」と答えている保護者が、80%以上である。	・学校だより、学年だより、学級だよりを定期的に配布し、学校ホームページでも学校や児童の様子を保護者や地域へ発信する。	A	・⑫～⑭すべてにおいて、目標を達成することができた。さらに向上できるように次のような手立てを実施していきます。 - 学校だより、学級通信、HP等を通して、学校の様子、活動を保護者、地域に伝えていきます。担任は、児童の様子の変化を把握し、連絡帳への記入や、必要に応じて保護者と電話連絡を取り合い、保護者が学校へ相談するハードルをなくすようにしていきます。 - 今年度は学校運営協議会を1回増やし、年4回の開催を予定しています。地域と学校が目標や課題を共有し、話し合いの場を設けていきます。また、話し合いの場に児童も参加させ、子どもの視点からの意見を取り入れることで、学校運営の改善や目指す学校像の実現を図っていきます。
	⑬		「学校に連絡や相談がしやすい」と答えている保護者が80%以上である。		A	
	⑭	学校は、目指す学校像「地域とともに学び、子どもの夢と可能性を育む学校」の実現に努めている。	「している」と答える児童・保護者・教員が80%以上である。		A	
Ⅴ 安全確保・施設設備	⑮	学校は、交通事故防止、火災・地震・不審者対策など、安全教育の徹底を図っている。	交通ルールを守り、安全に気をつけて登下校している児童が100%である。	・警察署と連携して、参加体験型の交通安全教室、不審者対応を消防署と連携して、実際の事案や災害を想定した不審者対応、火災、地震を想定した避難訓練を実施する。 ・学級活動において、安全な歩行の仕方について指導する。また、交通安全教室を実施し、中高学年の児童に自転車の乗り方の指導を行う。 ・学期末の集団下校時に、通学路点検を行い、登下校の安全確保に努める。	B	・⑮について 交通安全教室や終業式などで外部の方の話しを聞く機会を設け、交通事故の怖さを意識させ、自分の身を守ることを自覚してもらいます。また、学級では適時適切に交通ルールやマナーの指導を継続的に行い、意識付けをしています。 ・⑯について 10月の学校公開日に合わせて「地域防災訓練」を実施します。これを機会に、親子で危険箇所や避難場所の話しをしてもらい、防災への理解を深めてもらいます。 - 年に数回実施する避難訓練後に、避難の仕方など児童に振り返る機会を設け、自分の身は自分で守る意識を高めていきます。
	⑯		災害や火災発生時の避難の仕方がわかると答える児童が90%以上である。		B	
Ⅵ キャリア教育	⑰	学校は、自分の将来の夢や希望について主体的に考えるキャリア教育の推進を図っている。	「将来の夢や希望について考えている」と答えている児童が80%以上である。	・総合や社会、学級活動などをはじめ、全ての教育活動において、自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していくことができるようにキャリア教育を充実させる。	A	・⑰について 目標を達成することができました。さらに向上するために、キャリアパスポートを活用し、児童には自分の将来について考える機会をつくっていきます。また、目標の設定をし、それを学期毎に振り返りを行います。保護者にも見てもらい、親子で話し合う機会を設けます。 ・⑱について キャリアパスポートの充実と学活等で学年の発達段階に応じて、自分の長所、短所を知る「自分を知る」授業を実践していきます。また、授業の中で、自分の意見や考えを発表する場面を多く設定し、自己指導能力を高めていきます。
	⑱		「自分の持ち味を理解し、それを生かそうとしている」と答えている児童・保護者が80%以上である。		B	